革新の風 FAX ニュース８４９号

２０２２年９月７日　　全国革新懇事務室

ＴＥＬ０３－６４４７－４３３４　ＦＡＸ０３－３４７０－１１８５

Ｅメール zenkoku@kakushinkon.org

つながりつくって運動ひろげよう

全国革新懇が青年のシンポジウム

前列右から時計回りで、中山さん、稲葉さん、虎瀬さん、塩田さん、eri さん、佐々木さん、大谷さん

全国革新懇は９月５日、青年企画シンポジウム「要求と運動、これからを語り合おう」を開催しました。パネラーは、民青同盟副委員長の中山歩美さん、全商連青年部協議会議長の佐々木亮さん、全日本民医連事務局員の虎瀬寛子さん、全労連青年部書記長の稲葉美奈子さん、環境アクティビストの eri さん、神戸大学研究員の塩田潤さんで、全国革新懇事務室員の大谷智也さんがコーディネーターを務めました。

冒頭、大谷さんは「コロナ感染拡大、ウクライナ侵略など困難に直面するなかでの２度の国政選挙で、青年は対話を広げ仲間を増やしてきた。団体の運動への相互理解を深め、これからの取り組みを探求しましょう」と提起。

さまざまな団体、若者と手をつなごう　　活発に討論

各パネラーは、団体の紹介と併せて国政選挙での取り組みなどについて報告し、会場とのやりとりを交えて活発に討論しました。自己責任論や生きづらさがまん延するなか、どう青年にアプローチするか、運動団体の横のつながりを広げるかも焦点になりました。

eri さんは「自己責任だと思い込まされていることさえ自覚していない若者が少なくない」と指摘。政治の責任や自分の権利をどう意識してもらうかについて、ファッションや文化など自分なりの視点で発信し、考えてもらう活動をしていると報告。塩田さんは「生きづらさを共有し乗り越えていく上で、継続した運動ができる組織の存在は大事だ」と述べつつ、一方で組織にはトップダウンや窮屈さという側面もあり、「組織の内外で相手を気づかう姿勢が大事ではないか」と問題提起しました。

「青年は自己責任社会の中で孤立しがちだが、生の声を聴くと、政治や生活の話をしたがっているし、働きかけを待っている」（中山さん）、「コロナで活用できる制度を知らせるなど、業者青年にこれ以上の生きづらさを感じさせないよう、意識して活動している」（佐々木さん）、「コロナ禍の中、困難を抱える若い職員が思いを話し合える機会を多く設けることが大切。他団体とも連携して運動を広げたい」（虎瀬さん）、「労働法制改悪などで崩されてきた団結を結び直す役割が労組に求められている。さまざまな団体や市民、若者と手をつなぎ、政治・社会を変えていく必要がある」（稲葉さん）などと語り合いました。

「革新懇がこんなに若い人と交流するとは！」

会場・YouTube 視聴をあわせ 55 人が参加。動画は 150 回をこえて再生されています（７日時点）。「とても刺激的なシンポで、あらためて YouTube を観て復習したい」「とても良い企画。革新懇がまさかこんなに若い人を呼んで運動交流の場をつくれるとは。普段から各団体や市民がつながり、手を取り合うことが必要」「元気が出るシンポジウムだった」「２回目も期待」など、９人から感想が寄せられています。

シンポジウムの動画は、次の URL から視聴できます。

https://youtu.be/BknMkFQ9JFA